

第6号

昭和60年7月20日

静岡県立磐田南高等学校同窓会

印刷 総合印刷 大進堂

同窓会 だより



ご挨拶

教頭 高木 正信

同窓会の皆様方には益々ご清栄のことと拝察いたし、心よりお慶びを申し上げます。

私は、昨年四月前沢野睦夫教頭の後任として、浜名高校教頭から着任し丁度一年四ヶ月経ったところで、私事になりますが、本校は二度目の勤務で通算すると二十一年目にな



ご挨拶

同窓会長 松下 練司

会員の皆様方、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。昨年の総会で会長をお受けし、早や一カ年経過致しました。この間、皆様方のご協力を頂き今日に至りましたことは高校第十六回卒の年次の方々が担

り、今更ながら随分長い間お世話になったものだと思っております。子供二人も本校を卒業し同窓会の仲間入りさせて頂いていただいておりますので、本当に強い縁で結ばれた学校であり、微力ではありますが、一所懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

次に学校の近況ですが、今年の新入生歓迎会の講演は高校四回卒、物理学の伊藤厚子お茶の水女子大教授にお願し、学問の道に進むことになった経過も含めて示唆に富むお話を伺いました。校内の理科関係では昨年度生物部が鈴木梅太郎賞、地学部が学生科学賞、県教育長賞を受賞する等地味ですがよく活躍しています。先輩の話に触発されて学問の道に進む生徒が一人でも多く果立って

くれればと思います。

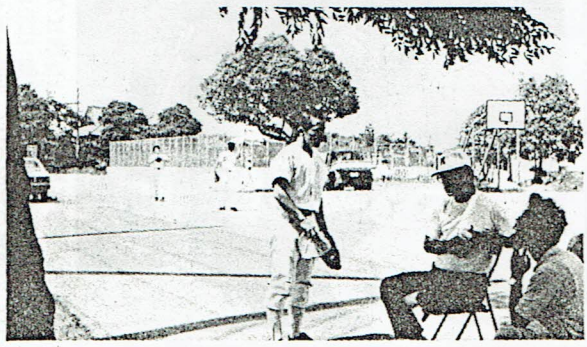
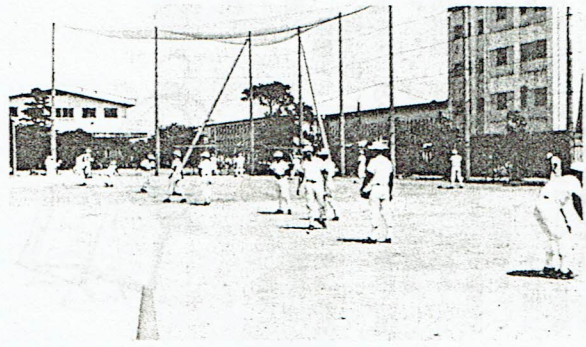
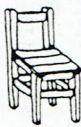
当幹事として準備に当られ、会を盛り上げる工夫に総力を挙げ活動されておりますこと、各支部の皆様方のご活躍に敬意を表する次第です。さて前年度は同窓会会員名簿の発刊の年に当り、校内幹事の先生方各年次委員会の方々には格別のご苦勞をお掛けしここにカラー写真入りの素晴らしい名簿の誕生をみました。将に一万有余名の卒業生の方々が各地域にそれぞれ活躍されて居られる状況が手に取るように把握でき、より正確により見やすく索引欄の工夫、住所異動連絡等宜敷くご活用願えれば幸甚です。五千七百部の印刷も滞りなく配布されましたこと関係各位に厚く御礼申し上げます。次に本年の事業の第一の狙いとして旧尾崎楠馬邸を買却し、この資金を基金として尾崎

又、今年の体育関係では、陸上部と山岳部が高校総体東海大会に出場し、陸上部は金沢でおこなわれるインターハイに駒を進めることになりました。全校生徒が参加するスポーツ・最優秀校という素晴らしい成績をあげましたし、又今春の大学進学状況も昨年をしのぐ素晴らしい成績で、正に「文武両道」という校訓にふさわしい成果でありました。

この素晴らしい現状を更によりよい方向へ飛躍的に発展させるべく勉学に、部活に師弟同行で頑張ってくださいと思いますので、同窓会の皆様方の今迄以上のご支援、ご鞭撻を是非お願いたします。

終りに本校同窓会の一層の発展と皆様方のご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

教育振興基金(仮称)の設立について後援会、同窓会、PTA三者合同会議のもとに運動を進める運びとなりましたが、その折には同窓会の皆様方のご協力をお願い致す次第です。第二の事業内容については「同窓会だより」です。既に六号の発刊となりましたが、今後名簿も新しい編集方針により内容も充実した「同窓会だより」を発行し、大勢の方々の投稿により会の密接な連繫のもとに増々に同窓会の今後の充実発展と会員皆様方のご多幸を祈念して挨拶にかえます。



思い出

見中第二十回生
柏原博一

昭和十六年の入試から学力検査が廃止され、内申と体力テスト及び面接によって選抜されることになった。体力テストでは「懸垂」、「短棒投げ」、「一分間競走」などがあり、あとは簡単な個人面接で入試は終了した。体力だけでは自信のあった私はこの入試方法の恩恵に浴して入学を許可された。

既に昭和十二年七月から日中戦争が始まっていたが、この年の十二月八日の朝、ハワイの真珠湾への奇襲攻撃によって、いよいよ、魔の太平洋戦争へと突入した。

毎日の学校生活が軍事一色に塗られていく一方では、食糧増産のために、農家へ勤勞奉仕に出掛けたり、冬には田の暗渠排水の土方作業のために、学業はしばしば中断された。そして、戦局が次第に不利になってきた昭和十九年七月、遂に四年生全員へ学徒動員の命令が下り、名古屋市郊外の三菱重工業で、兵器の生産に携わることになった。

十二時間勤務の日勤と夜勤を一週間交代でやるのだが、冬の真夜中は指先の感覚がなくなつた。

昭和二十年へ入ってから、昼夜を分かつたB29の爆撃の中を逃げ回つたが、一名の死傷者も出さなかつたのは、まさに奇跡であつた。

忘れ得ぬ思い出は、昭和十九年十月、厳しい工場の管理に抗議して、「大脱走」を試み、見事に成功させて帰郷してしまつたが、今思うと、あの戦時中の厳重な統制下で、よくもやつたものだと思ふ。



南高第十回生
杉島 岑

長らく同窓会活動に携わつてみると、結束のいい年次、集まりのいい年次がどの年次か、大体見当がついてくる。我々、高校第十回生も、その「模範的な」年次の一つではないかと自負している。

我々の同期全体としては、担当幹事をクラス別持ち回りで数年ごとに開庭楼で恩師を囲んだ親睦の集いを持ち、旧交を温めているが、クラス別の集いなども結構活発に持たれているようだ。

関東地区でも、毎年五月末か六月

初旬に親睦会を持ち、席上、向こう一年間の同窓会関東支部活動の年次委員を選出する。

地区では大橋孝久、大場貞男、高田孝之、大橋正己、小杉和久、山田勝彦、倉田秀彦の各君らが中心となつて活躍してくれているから安心だ。同窓会の集まりも「常連」が居てくれてこそ「珍来の客」の貴重さも出てくる。同窓会のいい所は、誰が世俗的な意味で出世しようがしまいが、「オレ、お前」の仲である点だ。それに同じように年齢をとって下さるのも有難い。同じ学舎での共通体験の数々の記憶も嬉しい。ただ、死ななきや治らないか、否、困つたことに死んでも語り継がれそうなのが、忘れてもらいたくないようなイヤな思い出である。まるで昨日の出来事のように時間が「凍結」されて、パッチリ再現して語つてくれる。

高校時代とは、何事もそれほど魂に深く深く刻み込まれる多感な時代なのだろう。

南高第十九回生
村松信行

私共が入学した、昭和三十九年当時の図書館は、旧正門の北側・現在の格枝体操場（昭和四十八年二月落成）のあたりにあつた。その建物は、創立十周年に当る昭和七年十二月に建てられ、大規模な独立図書館として、当時県下一のものであつた。

入学当初、上級生に図書館に案内された時「ずいぶん広くて、天井の高い閲覧室だなあ」というのが第一印象であつた。書庫は、後ですぐに開架式になつたが、入学当時はまだ

本を自由に手に取ることはできない閉架式であつたので、不便で少々暗い印象を受けたものだった。

私が図書委員を務めた三年間、本もずいぶん増え、もともと小さめの書庫が、ますます手狭になつてきたこともあつて、書庫の南側に付けて建てられていた創立三十周年記念文化館（昭和二十八年四月落成）にも本棚を置き、図書室として使用させてもらったものだった。

今、思い起こしてみると、木造平屋で背の低い細長い教室と違い、この図書館は、瓦葺の大屋根で、平屋ではあるが軒までの高さが高く、奥行も中も広くて、どしりとした風格があつた。内部も天井が高く、縦に細長い窓は、外に向けて観音開きのガラス戸が付いており、図書館が教室から離れて建てられていたためもあるだろうが、やや開放的な空気が感じられた。

私自身、本などめつたに読まない図書委員であつたが、図書館には、よく立ち寄つたものだった。

南高第二十六回生
加藤千代子



毎年、夏の強烈な太陽が照りつけ新聞のスポーツ欄に、各地での高校野球の熱戦が伝えられるようになると、私は決まって、あの応援練習のことを思い出します。初めての応援練習は、新入生歓迎会のあとでした。トイレットペーパーや紙飛行機が舞つた和やかな雰囲気が一変しましたので、余計に緊張してしまつたのかもしれません。応援団員の声は凄まじくありませんでした。目はにこりともしませんでした。校歌や応援歌を歌うと、「声が小さい」、「腕の振り方が小さい」と声が飛びます。何度も何度も、半ば自棄になつて声を張り上げたことを覚えています。

県予戦が始まると、毎日放課後、防風堤で練習でした。緑の防風堤からの喚声や歌声は、風にのつて青空へと舞い上がり、渦を巻くように吸い込まれては、こだまになって戻ってきました。それは、なんとも言えず奇妙であつたかき響きでした。斜面に長いこと直立していましたが、足の爪先が痛くなり、ふらつとすると、「動くな」という声がすかさず飛んできました。

本番は、大低一回か二回でしたけれども、その時はやはり、学生服に身を固めた応援団員が、とても頼もしく思えました。私も必死になつて腕を振り上げ、警南の名前を叫びました。

今は、懐かしくて大切な思い出です。

記念行事

見中第十回生

鈴木芳郎

昭和十一年三月に卒業した第十回生は五十周年記念事業として植樹を物故者慰霊祭と恩師を弔んでの懇親会を行いました。

記念植樹は四月二日午前九時より十六名が参加し、中安青芳園の三名の庭師とともに玄関の南側の小高い所に「つげの木」を植樹しました。

西ヶ谷校長先生より感謝のお言葉と学校の発展の様子を話されました。物故者慰霊祭は七月七日午後一時より西願寺で行いました。

代表者安藤賢一君と恩師曾我道雄



先生の追悼のことは、来賓西ヶ谷校長先生の追悼と学校の現況報告、遺族代表の山内克巳市長様と鷹野昭法先生の亡くなられた弟さん、兄さんの思い出話によって、見中時代とその後の激しい時代の恋遷を思い起し深い感動に包まれました。

百十一名中六十一名が生存し、五十名が亡くなられています。三十五名が出席して、心から級友たちのご冥福を祈りました。

三時より開延楼で曾我先生を閉め時の経つのも忘れて懇談しました。

見中第十九回生

持田純一

「花も蕾の若桜、五尺の命……」敗戦の色濃い昭和十九年夏、一学期を終えただけで、我々五年生は、思ひ出多い学窓に名残りを惜しみつつ、高塚の鈴木織機と袖浦の飛行場へ二手に分かれて学徒動員された。

その出動に当たっての式が、講堂で行われた時の事である。同じ別れであっても、卒業式とは違う緊張した重苦しい雰囲気の中で式は進んだ、と思う。正面の左右に並ばれた先生方の中で、日頃時に厳しう先生方知られるY先生の頬に光る涙を見つけて、私は胸にジーンとくるものがあった。

この日が、七月であったか、八月であったかとも思い出せない遠い日の事であるが、この光景だけが、何故か昨日の事のように鮮明に眼に浮かんでくる。今春、卒業四十年を記念して、本部へ事業資金の一助にと、金一封を贈ることができたのは、動員や陸海軍へと別れた友が多かったにも拘らず、我々の団結の力だと自負している。

南高第七回生

名倉正彦

昭和十年前後に生まれた世代は集団として病気になるやすい「生物学的もろさ」を持っている。それは、胎乳幼児期に栄養不良で過ごし、敗戦直後の少年期に価値観の激動を経験した為だと言われており、同窓会員名簿にもその傾向が窺われます。しかし、我が七回生は丈夫で長持ちと自負していたのに、慰霊祭の打ち合せをしている内に、在学中と本年六月に亡くなった方がいる事がわかり、ショックを受けているこのごろです。

在学中の二人、卒業後六年間に三人とごく若い内に他界された五人と十四年前と本年と男盛りになくなった二人の慰霊祭になるわけです。長生きする事がよいとはかりは言えませんが、その時の本人は元より御両親、御主人、奥様、お子様の心情は如何許りであったらうと思いを馳せる時、万感胸に迫り憐憫の情を禁じ得ません。

何もお力添えできないので、せめて心をなめた追悼式に、亡き友と語り合いたいと思っております。南高第十六回生 山本賢

先端を行っていると、冷やかされる今日この頃です。年に一度の同窓会総会は、卒業生同志或は恩師の皆様方の、ノスタルジアを御馳走とする大祭典でございます。我々高校十六回生は、この御馳走の盛り合せと、味付けを任せられ二年前より準備に入った次第です。当番年次を経験して、今更ながら先輩諸氏や事務局の皆様の大変さを感じております。

当番年次は、大変な仕事ではあります。このことによって復活する同級生とのコミュニケーション、諸先輩の後輩や警備に対する深い愛情は、何物にも換え難く、多忙の中で暗中模索する内に、大きな拾いものをしてたと大喜びであります。さては、この収穫を我々に与える為に、当番年次制度を考案したのかと、またまた諸先輩の畏ろしさを感ぜさせられ、自分達は「キントン雲」に乗って全速力で地の果てへ向う孫悟空。諸先輩は、微笑みながら見守るお釈迦様と相成る次第でございます。

南高第二十五回生

松下利幸

去る二月十日、高校二十五回(昭和四十八年)卒業生の「十年会」が磐田グランドホテル平安の間において九十余名の出席者をもって盛大に行なわれた。お招きした恩師の藤田八郎先生、熊谷薫先生、鈴木吉勝先生、天野力一先生、富田直次郎先生、撫養崎三先生の思い出話を伺っているうちに、腹の出できた人、頭の寂しくなった人、小皺の目立ってきた人等々、次第に十年前の世界に引き戻されていった。初めのうち「こい



つは誰だ」という様な懐疑心に満ちた目で見ていた同窓生同士も、そのうちに握手したり名刺の交換をしたり酒を飲み交わったりして、会は次第に盛り上がりつつあった。その後に豪華(?)景品の抽選会、同級生カップル(五組)の紹介、最後に元応援団の指揮で校歌斉唱をしてお開きとなった。そして別れを惜しむ様に、二次会・三次会へと更けゆく磐田の街へ繰り出していった。最後に、二ヶ月という非常に短期間に「十五年会」を企画・運営して下さった役員の方々、本当に御苦労様でした。



恩師だより

*海山 日吉(国漢) 29~32年
同窓会の皆様には、御無沙汰の限りですみません。妻の発病以来十年を過ぎ、毎日の看病で余裕もありません。僅かな子供相手の習字をしています。

*畑 光夫(英語) 29~34年
昭和五十九年四月より文学部長になり、忙しくなりました。孫二人になり、時の流れを感じます。ジョギング毎日十キロメートル走っています。

*杉田 豊(数学) 45~51年
仕事の関係で学校には時々寄らせていただいております。春先には新装なった「はぐま会館」で仕事をさせていただきました。磐田南高校のますますの発展を祈ります。

*井上 正俊(国語) 50~56年
県内高校の各部の試合結果、受験シーズンが到来すれば、合格の状況はどうかと、今だに磐南のことが気にかかり、一喜一憂しています。

*岩田 讓(英語) 24~49年
教員生活四十七年、なかでも南高には十五年もご厄介になり、正に私にとって母校中の母校です。校運の益々の隆昌を蔭ながら見守って喜んでおります。
私も余生を勉学に捧げる覚悟です。

学校だより

部活動の状況

陸上部

県大会

・三千m障害

・五〇〇m

・五〇〇m

・四×四〇〇mリレー

東海大会

・三千m障害

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

山崎好夫 四位

S58・59年度合格者数と進路別人数

国立大学	58年	59年	名古屋市立	1	—	法	政	17	13
北海道	3	5	他	5	4	武	武	9	12
東北	5	9	合計	18	24	明	治	33	38
東京	3	2				立	学	13	9
東工	1	3	私立大学	58年	59年	早	稲	18	24
お茶の水	1	3	青山学院	10	9	神	奈	12	7
電気通信	1	1	学	5	2	愛	知	14	11
一橋	1	1	共立女子	4	2	名	城	4	8
横浜国立	3	7	慶応義塾	14	20	京	都	6	5
金沢	3	2	国学院	5	7	立	命	13	13
信州	2	2	駒沢	7	5	西	西	12	3
浜松医科	3	1	実践女子	1	3	関	西	12	3
名古屋	11	3	芝浦工業	4	8	西	学	1	7
京大	7	5	上智	2	2	(以下略)			
大阪	1	5	成蹊	4	1	短大(国公立)	10	10	
広島	2	3	成城	2	2	短大(私立)	26	48	
徳島	2	3	専修	19	17	短大(私立)	26	48	
静岡	57	56	大東文化	6	11	専修学校	10	7	
他	26	27	中央	14	23	専修学校	10	7	
合計	131	135	中	7	8	各年度(浪人)	106	78	
公立大学	58年	59年	東京女子	3	1	就職	8	7	
東京都立	1	2	東京電機	6	12	卒業生総数	362	308	
横浜市立	6	1	東京理	14	23				
横須賀	2	5	東洋	6	6				
都留文	2	5	東日	24	31				
静岡女子	3	1	日本	4	7				
静岡薬	4	11	女子	4	7				

△バドミントン部(男子)
県大会
・団体戦 磐田南0-2 韮山
△剣道部
・男子団体戦(予選リーグ)
磐田南1-2 韮山
磐田南0-4 静岡市立
女子団体戦(予選リーグ)
磐田南0-5 常葉学園
△男子バレーボール部
県大会
・第一回戦 磐田南2-1 島田工業高校
・第二回戦 磐田南1-2 松崎高校
△男子バスケットボール部
県大会
・第一回戦 磐田南60-51 沼津東
・第二回戦 磐田南60-57 浜松西

△テニス部
県大会
・男子団体戦
第一回戦 磐田南0-2 韮山
女子団体戦
第一回戦 磐田南1-2 藤枝南

△柔道部
県大会
・団体戦 一回戦 磐田南4-0 庵原
二回戦 磐田南0-5 星陵

△第三回戦 磐田南53-74 浜松北

△事務報告
8月19日 同窓会総会 慰霊祭
9月5日 本部役員会 名簿関係
11月10日 関東支部総会・同窓会長
校長出席

事務局だより

11月20日 同窓会名簿59年版発送
11月22日 評議員会 名簿関係
2月12日 名簿代金納入依頼状発送
4月2日 記念植樹 見中10回生
4月26日 PTA・後援会役員会
6月6日 名簿代金督促状発送
6月24日 役員会・高16回生との合同
同打合せ会 総会について
7月5日 静岡支部総会・同窓会長
校長・PTA会長出席
7月10日 会計監査
7月20日 評議員会
△今年度の当番年次
卒業10年会 高26回 新役員選出
20年会 高16回 総会当番年次
30年会 高7回 慰霊祭当番
40年会 中18回 資金作り
50年会 中19回 記念植樹

編集後記

同窓会だより第六号をお届けいたします。原稿依頼も年次が一順いたしましたので、今回を最後に新しい編集方針を進みたいと思います。読み易く内容の充実したものをより多くの皆様にお配りし、これを同窓会と会員との太いパイプラインにしたいと思っております。
現在編集委員会を設けるべく委員の選定を進めていますが、皆様の貴重なご意見などお聞きしながら進めていきたいと思います。
原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼を申し上げますとともに皆様方のご協力をお願いいたします。

△関東支部より
支部長 安藤賢一(中10回)
去る十一月十日(出産経会館)に於て定期総会を開催。会長再選。懇親会に移ったが百七十名の出席者と校長、同窓会長、恩師来賓の臨席を得て非常に盛会であった。
△オペラ歌手(ソプラノ)大沼美恵子(高二十八回卒・東京芸大、大学院卒)後援会開催される。

△静岡支部より
支部長 芝田岳夫(中11回)
去る七月五日(金鷹匠会館)に於て支部総会を開催。
出席者・約七十三名、内女子八名。
西ヶ谷校長、戸田PTA会長、松下同窓会長、伊藤、前芝、佐原、広岡の四県議も臨席し盛会であった。

△後援会開催される。
会長 中村貞夫 栗田工業社長
副会長 松下 鎌司 同窓会長
事務局 杉嶋 岑

昭和59年度磐田南高等学校同窓会会計決算報告書

昭和60年7月20日

1. 一般会計	1. 収入決算額	¥ 4,038,353	
	2. 支出決算額	¥ 2,916,400	
収入の部	3. 差引残金	¥ 1,121,953	60年度へ繰越

科目	予算額	収入済額	増減	摘要
1. 同窓会入会金生 59年度卒	947,000	947,000	0	全日制 3,000×308人 定時制 1,000×23人
2. 同窓会終身会費生 59年度卒	970,000	970,000	0	全日制 3,000×308人 定時制 2,000×23人
3. 定期預金利息	443,870	440,939	△ 2,931	定期利息 360,939 出資配当金 80,000
4. 雑収入	9,000	149,532	▲ 140,532	普通預金利息 17,798 募金繰入 112,734 記念誌売却 19,000
5. 前年度よりの繰越金	1,530,882	1,530,882	0	
合計	3,900,752	4,038,353	137,601	

支出の部

科目	予算額	流用額	予算現額	支出済額	残額	摘要
1. 会務費	731,000	85,480	816,480	722,900	93,580	
1. 会議費	150,000		150,000	101,600	48,400	役員会、評議員会経費
2. 総会費 慰霊祭費	220,000	4,000	224,000	224,000	0	総会補助、 慰霊祭供物料等
3. 支部総会費 年次運営費	181,000	4,000	185,000	185,000	0	年次運営費、支部総会、 10周年記念補助
4. 慶弔費	120,000	77,480	197,480	197,480	0	転退職職員へのせん別 香料、屯電代等
5. 事務費	60,000		60,000	14,820	45,180	通信費、事務局費
2. 事業費	250,000	13,500	263,500	223,500	40,000	
1. はぐま会助成	50,000		50,000	10,000	40,000	大会在学生の会への助 成
2. 教育助成費	150,000	3,500	153,500	153,500	0	卒業記念品代、野球・ 陸上部選手へ祝儀
3. 会報発行費等	50,000	10,000	60,000	60,000	0	同窓会だより第5号発 行
3. 積立金支出	1,970,000		1,970,000	1,970,000	0	
1. 別途会計へ	970,000		970,000	970,000	0	終身会費分を別途会計 へ
2. 定期積立分へ	1,000,000		1,000,000	1,000,000	0	一般会計の定期部分
4. 予備費	949,752	△ 98,980	850,772	0	850,772	
1. 予備費	949,752	△ 98,980	850,772	0	850,772	流用
2.						
合計	3,900,752		3,900,752	2,916,400	984,352	

※ 一般会計の定期積立分（利息は一般会計へ） ¥ 7,234,000

2. 別途積立金 ¥ 18,322,592

昭和60年7月10日

監査の結果適正であることを認めます。

会計監査委員 見16 鈴木 彰
高3 織田 武

昭和60年度磐田南高等学校同窓会会計予算書

昭和60年7月20日

収入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 同窓会入会金60年度	1,496,000	947,000	549,000		全日制 4,000×371人 定時制 1,000×12人
2. 同窓会終身会費60年度	1,137,000	970,000	167,000		全日制 3,000×371人 定時制 2,000×12人
3. 定期預金利息	485,100	443,870	41,230		定期預金利息 405,100 出資金配当 80,000
4. 寄 付 金	300,000	0	300,000		見中18・19回生40周年記念寄付
5. 雑 収 入	14,947	9,000	5,947		普通預金利息等
6. 前年度繰越金	1,121,953	1,530,882		408,929	
合 計	4,555,000	3,900,752	654,248		

支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 会 務 費	880,000	731,000	149,000		
1. 会 議 費	150,000	150,000	0		役員会・評議員会等の経費
2. 総 会 費	250,000	220,000	30,000		総会補助・慰霊祭供物料等
3. 支 部 総 会 費	200,000	181,000	19,000		支部総会祝儀等、10周年会補助、年次運営費
4. 慶 弔 費	180,000	120,000	60,000		転退職職員せん別香料・弔電代等
5. 事 務 費	100,000	60,000	40,000		通信費・事務局費等
2. 事 業 費	1,410,000	250,000	1,160,000		
1 はぐま会助成	50,000	50,000	0		大学在学生の会への補助
2. 教育助成費	180,000	150,000	30,000		部活動大会出場選手への祝儀卒業記念品代等
3. 会報発行費	80,000	50,000	30,000		同窓会だより第6号発行
4. 教育振興費	1,000,000	0	1,000,000		新設 尾崎教育振興基金設立に伴う援助
5. 諸 費	100,000	0	100,000		新設 上記科目以外の事業諸費
3. 積立金支出	1,137,000	1,970,000		833,000	
1. 別途会計へ	1,137,000	970,000	167,000		終身会費分の積立
2. 定期積立分へ	0	1,000,000		1,000,000	
4. 予 備 費	1,128,000	949,752	178,248		
1. 予 備 費	1,128,000	949,752	178,248		
合 計	4,555,000	3,900,752	654,248		

備 考 各科目間の流用を認める。